

富山市立南部中学校 図書委員会

東日本大震災後、本校の生徒会は義援金を募ったり、応援メッセージの寄せ書きを被災地の中学校へ送ったりという活動をしてきました。そのような生徒会活動の一環として図書委員会としても何か支援できないかと4月に委員長が司書に相談に来ました。

23年度前期図書委員会の活動テーマは「広げよう 本のちから」。

このテーマに沿って、活動方法を考えました。

委員長は家庭にある本を集め、できたら自分たちと同じ「こどもたち」への支援がしたいと考えていました。

ただ、津波で何もかも失ってところが傷ついている人たちに「おさがり」の本は失礼にならないか？という不安がありました。

また、生徒の活動を支援する司書自身このような被災経験がなく、被災地の方々の心情がどこまで思い計る事ができているのか甚だ不安でしたが、今、本校の生徒が自分たちの力でできる範囲で何かしたい！という思いを大切に、その活動を支援したいと思いました。

まずは、被災地で本を受け入れてもらえるのかどうかを調べることから始めました。

宮城県に知人を多く持つ司書仲間を介して聞いてもらったところ、本を受け取っても活用する余裕が無いとの回答がきました。この活動を計画した4月当初はまだ被災地では生活の基本を整える段階だったのです。

ただ、生徒にとってこの活動は、授業、学校行事などの合間を縫っての活動ですので、時間がかかります。支援する司書が週3日（月・水・金）の勤務であることもあり、実際に本を送るのは6月になろうと予測し、その頃には被災地も少しは落ち着き、本も受け取ってもらえるのではないかと、考えました。

そこで、インターネットで調べたところ「本を送る活動」をしている団体がいくつか見つかりました。

その中で、新品の本に限定せず、子どもの本の支援をしている団体ということで「絵本プロジェクトいわて」を本の送り先に決めました。

こうして、南部中学校での〈被災地に本を送ろうキャンペーン〉は始めました。

「絵本プロジェクトいわて」で定めた集本ルールに従い本を集めるために、PRポスターを作り、また図書便りも発行して、全校生徒に協力を依頼しました。（活動の流れ：別紙）

委員会の呼びかけに応え、たくさんの本が生徒や教員から寄せられました。

一人で何冊も寄付してくれる生徒が大勢いました。登下校に車での送り迎えを原則禁止されている生徒は、そのたくさんの本を友人の手を借りて学校まで運び込んだり、家族の

協力を得て親子で放課後に運び込んだりしてくれました。

委員会では本を集める際、必ず家族の了解をとってくることを生徒に訴えました。

これは、本を手放すに当たって、一冊の本に込められた家族の思い、本人の思い出を振り返ってもらい、私たちは「物質」としての本を送るのではなく、「被災地へのエールの思い・心」としての本を送りたいという思いからです。

本を寄せてくれた生徒にはメッセージカードへの一言も添えて貰いました。

集まった本は、一冊ずつアルコールペーパーで全ページ清拭し、図書室中に立てて風を通しました。

窓を開け放して作業をしていると、梅雨入り前の湿度の低いさわやかな風が図書室に吹き渡りました。そうすると本がまるで生きているかのように勝手にページが動き、全ページに風が行き渡りました。

本の補修も終え、メッセージカードも張り終えた本は大きさを揃え、出入りの書店の協力で入手したきれいな段ボール箱になるだけきっちりと詰め込みました。

それは、本が搬送中に箱の中で動いて破損するのを避けるためと、輸送費を少しでも切り詰めるためです。(しかしこれは、年齢別に仕分けて箱詰めした方が受け取る側にとってすこしでも助けになったのではないかと、後から後悔しました。)

輸送費は生徒会活動費から出してもらえることになりました。

430冊余りの本が詰まった6箱の段ボール箱を前にして子どもたちは何か言いたそうに、むずむずしています。ようやく意を決した一人の生徒が無地の段ボールに絵を描いてもいいかと聞いてきました。

それから1時間。子どもたちは無心に絵を描き続けました。

発送から3日もすると、「本、無事に届いたよね。」と生徒がしきりに聞いてきます。

「3. 11 絵本プロジェクトいわて」では全国から多くの本が届いているでしょうし、確認など不躰な電話であることは重々承知で、本の到着状況の確認の電話をしました。

毎日届く多くの段ボール箱のなかでもイラストのある我が校の段ボール箱は目を引いたようで、無事確認が取れました。

7月22日、「3. 11 絵本プロジェクトいわて」から一通の書状が届きました。

22万冊以上の本が集まり、順次被災地に配布をしているとのことでした。



← たくさんの本が集まりました

アルコールペーパーで全ページ清拭→



←風にページがゆれます

修理・補強作業→



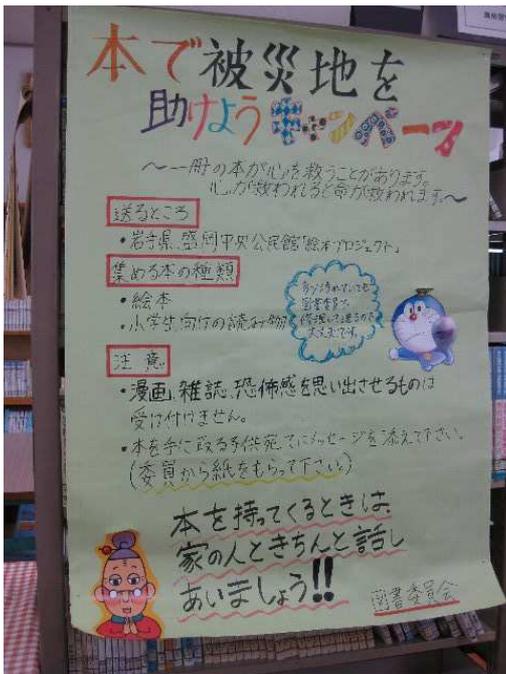
←とどけ！私たちの心
ハート型のシールでメッセージ
を貼り付けます



←箱詰め



作業終了→



校内に張った PR ポスター



メッセージを書き始める生徒たち→

